

障がいがあっても「共に働く」場を

農業の分野で障がい者が働く「農福連携」（農業と福祉の連携）の取り組みが広がりつつあります。視察で訪問した小金井市の農家の畑では、障がいのある人たちがそれぞれの特徴に応じて作業をする場となっています。都の2017年度予算に、農地を買い取りモデル農園として活用することが計上されました。実施に向けて積極的に要請していきます。また、地域のニーズに応える事業を市民が創り出す「ワーカーズ・コレクティブ（コープ）」やハンディのあるなしに関わらず共に働く「社会的事業所」を増やしていくことも重要です。



▲2016年7月、小金井市の江戸東京野菜の生産農家を視察

山内れい子のプロフィール

■ 1955年港区生まれ ■ 79年上智大学文学部卒業。広告・編集会社勤務を経て、フリーライター ■ 05年国立市基本構想審議委員会委員・まちづくり活動に参加 ■ 09年都議会議員初当選。文教委員会副委員長 ■ 13年2期目当選。財政委員会、オリンピック・パラリンピック等推進対策特別委員会 ■ 国立市在住

◇2017東京都議会議員選挙◇

山内れい子スタート集会

2017年6月2日（金）

19:00~20:30 国分寺Lホール

ゲスト/三木由希子さん

（情報公開クリアリングハウス理事長）

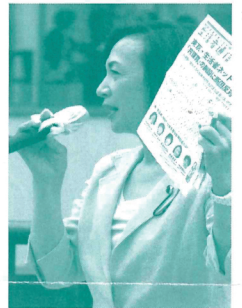
7月2日は
東京都議会議員
選挙の
投票日です
（期日前投票は
6月24日~
7月1日）

▶「都民ファーストの会」から推薦

都議選まで2カ月を切るなか、北多摩2区の山内れい子は「情報公開、再生可能エネルギーの利用促進、人権尊重・男女共同参画社会の構築」の3つの政策協定を交わし都民ファーストの会から推薦を受けることになりました。生活者ネットワークは、小池都政に対してあくまでも是々非々の立場ですが、都民に直結した政策実現のために議席の確保をめざしていきます。

▶「共謀罪」法案に断固反対します

今国会で審議中のいわゆる共謀罪の創設を含む「組織的犯罪処罰法改正案」は、本当にテロ対策が目的なのか疑問視されています。計画したことが犯罪になること



▲4月21日立川駅頭にて生活者ネットワークの仲間と「共謀罪」反対を訴える山内れい子

から、密告を奨励するような戦前の治安維持法による監視社会化を招く危険性があること。また、組織犯罪やテロとは無縁の犯罪も対象にしていることから、拡大解釈によって、「表現の自由」や「集団結社の自由」、「思想・信条の自由」までもが侵害されかねない、危険な法案です。

山内れい子さんをお応援します！



小柳 智恵
東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事長

「働くことは、生きること」一年齢、性別、働き難さを抱えるなど、互いの違いを認め合い、人間らしく尊厳をもち「共に働き」「共に生きる」そんな社会をつくるには、政策決定の場に、当事者の目線で市民の声を議会につなぐ議員が必要です。ひとり一人が大切にされる社会をめざす、東京・生活者ネットワークをお応援します。



田中 優
未来バンク事業組合理事長

世界ではたった八人が地球上の下から半数の資産を持つようになった。日本でも中間層がいなくなり、貧困層に転落した。大学生の半数が奨学金がなければ大学に通学できない状態になった。このような社会を変えていかなければならない。そのためには自主的で自発的な活動をしていかなければならない。それを実現しているのが「生活者ネット」の活動ではないか。彼女たちを「代理人」として議会に送り出すことは一つの希望だと思ふ。この運動に期待している。